

岐阜大学教育学部同窓会報

第1号

ご挨拶

会長 田中 貞一郎



この度、同窓会報第1号をお届けできますことを、大変うれしく思います。

ご承知の通り、本同窓会は、岐阜大学教育学部及びその前身である師範系の卒業生、修了生をもって構成され、会員一万数千名の一大組織であります。

今日まで、諸先輩の努力により、会としての独自の事業を展開して参りましたが、年月の経過とともに、師範系会員が減少する一方で、大学系の会員数が増大

しております。そうしたこともあって、様々な課題も生じ、本同窓会の在り方について検討すべき時期にきているのではないかという声が聞こえるようになって参りました。

幸い水野前会長が「組織・運営等検討委員会」の設置を提案され、評議会において議決されましたので、有志の方々に委員を委嘱し、昨年1年間かけて、本会のよりよい在り方について検討を重ねて参りました。その中で各種規則を定めて役員を選出方法や任期を、又、部会を設置して会務の分担を明確にするなど、会則（当時規約）の改正を図りました。

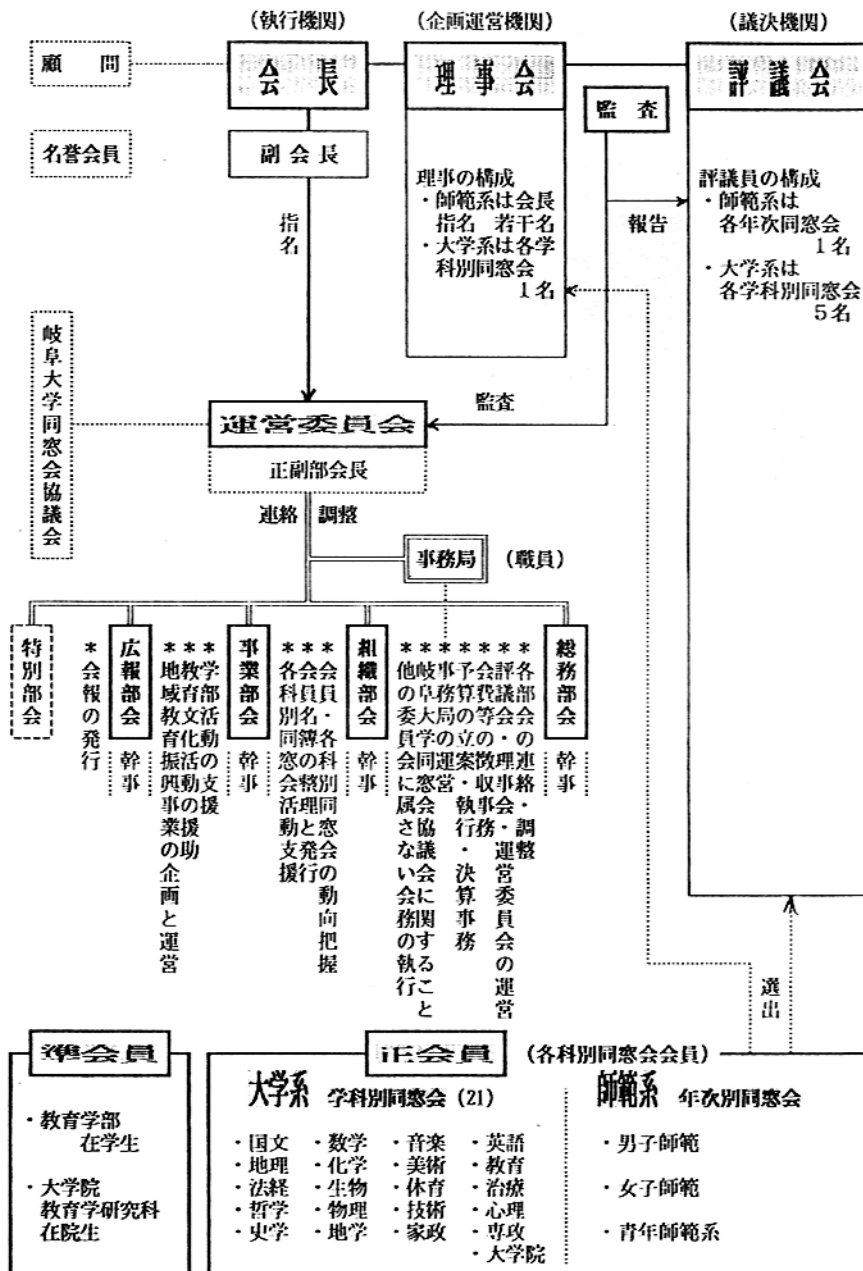
この同窓会報第1号は、広報部会が部会活動の第一歩として手がけたものです。なお、組織部会が名簿の整理を始めていますが、前にも述べましたように会員数も多く、さらに近年の卒業生はその半数前後が一般企業に就職される現状から、異動等に伴う会員の掌握がきわめてむずかしい状況にあります。一人ひとりの会員が自覚いただくとともに、特に、年次・学科別同窓会の役員の方々の格別のご理解・ご協力が賜りたいと存じます。

終わりにになりましたが、会員各位のますますのご健勝を祈念し、創刊号発刊にあたってのご挨拶といたします。

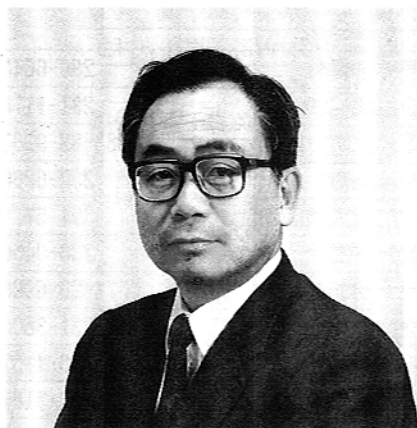
会則・規則と組織について

今回の会則の改正により、同窓会の役員と組織が下図のようになりました。
また、会員の皆様に周知いただくために、会則と規則の全文を掲載いたします。

岐阜大学教育学部同窓会 組織運営図



岐阜大学教育学部の現状と展望



岐阜大学教育学部長

後藤 忠彦

岐阜大学教育学部も、他の大学と同様に大きな変革の波にさらされています。大学全体の改組として、教養部が無くなり、新しい学部として「地域科学部（仮称）」の設置の概算要求を文部省に出しています。もし、要求が認められれば、平成9年4月から新しい学部の学生を受け入れることとなりますが、このために教育学部としては70名の学生定員を新学部に出すことになっています。また、本学部としては、しばらく厳しい状況にある教員採用への対処と、新しい講座の設置、大学院教育学研究科の設置を進めています。

これらの教育学部の現状を報告させていただきます。

大学院教育学研究科の設置

教育学部では、大学院教育学研究科（修士課程）の設置を文部省に要求してきました。その結果、平成7年度に2専攻7専修（定員26名）が、平成8年度にはさらに4専修（定員13名）が認められ、2年間で全専修が設置される予定です。

計画当初は数年はかかると思っていましたが、このように、2年間で全ての専修が整備できたことは、教育学部の教官の大変な努力と、教育学部同窓会のご協力、文部省、岐阜県教育委員会の多くの方々のご支援があつてのことと大変感謝しています。特に、教育学部同窓会の方々には多くのご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

平成8年4月からの大学院教育学研究科の構成は、次のようになる予定です。

学校教育：学校教育（教育・心理・治療）

教科教育：国語教育・社会科教育・数学教育・理科教育・音楽教育

美術教育・保健体育・技術教育・家政教育・英語教育

定員は全体で39名です。特にこの大学院教育学研究科では、定員の約1/3にあたる人数の現職教員を受け入れることになっています。その教育の方法も、2年間の課程のうち、最初の1年間は大学で学習し、後の1年間は、主として在任校で研究し、一週間に1日程度大学で研究を行うようになっています。ぜひ、教員の方々の多数の入学をお願いします。

また、学部の卒業生も、今後、多くの者が大学院へ進学し、さらなる教育研究と専修免許を取得して教育界に進むと考えています。これらの卒業生が、岐阜県をはじめ各分野の教育に貢献することを期待しています。

大学院公開講座について

新しい教員免許法によって、大学院修了者に対し、小学校、中学校、高等学校教員それぞれに専修免許ができました。しかし、大学院の学生定員や教員の方々の時間的問題もあり、免許取得を希望される現職の先生方が全員大学院へ進学することは困難であります。

そこで、本研究科では、より多くの教員に専修免許取得の機会が得られるよう大学院公開講座を開催いたします。（平成7年度は、専修免許がとれる公開講座を教員が受講しやすいように、10月、11月、12月のそれぞれ第2・第4土曜および日曜等に開催し、3科目（教材開発論特論、学習心理学特論、教育法制論特論）で各1単位が取得できるようにしました。）

免許法によれば、基礎免許として小学校か中学校の第一種免許があり、教員経験年数6年以上の方は、6単位を取れば専修免許が取得できます。ぜひ、公開講座への多数のご参加をお願いします。（詳しくは、本学部学務係へお問い合わせ下さい。）

なお、このような大学院で専修免許が取れる公開講座の開催は、岐阜大学が最初であると聞いています。

障害児教育実践センターの設置

平成5年に、障害児教育に関する基礎的・臨床的研究や教育方法の開発を行うこと、障害児の地域生活における総合的教育活動や研修活動を行うことを目的として、障害児教育実践センターが設置されました。

平成7年6月には、教育学部本館南側に、鉄筋2階建ての障害児教育実践セン

ター棟が竣工しました。センター施設として、教官研究室や図書資料室等のほか、プレイルームや生活・食事・排泄・入浴の各訓練室、感覚運動機能の検査室等があり、障害児の教育訓練や相談活動、保護者や教育関係者の研修活動に活用されています。

なお、教育学研究科の設置と障害児教育実践センターの竣工を記念して、平成7年6月21日に記念式典と祝賀会が行われました。

生涯教育講座の新設計画

新しい学部の設置と併せ、教育学部も、生涯学習社会に向けて「複合的専門生」習得を目的とした新たな教員養成をする生涯教育講座の設置（平成9年度予定）の要求を進めています。

この生涯教育講座では、現在の教育が抱えている不登校やいじめをはじめ様々の課題の解決に、学校、社会、家庭の視点から広く生涯教育の立場からの教育研究を進めていくことを考えています。この講座は、生涯心理、生涯教育計画、学習情報、生涯教育内容で構成する予定です。

ここでの学生は、各教科等の教育研究と併せ、学校教育の視点からの生涯教育関連の学習を進めることとなります。また、このコースの学生は、教員免許の他に、認定心理士、社会教育主事、情報処理士、学芸員、スポーツ指導員等の資格取得を目的とします。さらに、全学部生のために、司書教諭の資格等が取得できるようにしたいと考えています。

本講座は、現在の教育のもつ課題そして今後のいろいろな教育課題を解決するためにもぜひ設置したいと思っておりますので、ご協力下さるようお願いいたします。

大学院等の校舎

多くの大学では、大学院教育学研究科の全専修が整備されると、大学院と学部関連の教室とを併せて新しい校舎が建築されています。

本学部も平成8年4月から全専修が整備できましたら、希望している新講座の増設で必要となる教室等の設置も配慮した校舎の建築を今後、同窓会の皆様をはじめ関係者の協力を得て実現したいと計画しています。

就職について

教育学部は、明治6年から現在に至るまで、教育研究と教員養成を進めてまいりました。しかし、現状では出生率の低下からの児童・生徒の減、および昭和30年代初期の教員採用者数の少なかったころの教員の退職時期等の条件が重なり、

教員採用がこしばらくは大変厳しい時期になっています。このため、本学部の卒業生も、学校教育以外の生涯教育、企業内教育等の教育関連への就職をはじめ、公務員、民間企業等へ広く就職するようになってきました。このような現状に対応するため、よりよい教員を送り出すとともに、教育界以外への就職の支援も必要となってきました。本学部としても他の大学の教育学部等で進められているように、広く就職に関する指導者や施設の設置等の整備充実が必要となってきました。

また、より充実した教員養成には、教育実習をはじめ教育実習の事前・事後指導等の充実を図る必要があります。このために、これまで文部省の支援で教育実践指導者の充実も進めてまいりました。今後これら教育実践指導をより体系的に進められ、また、就職関係施設の整備も教育学部同窓会等の支援で進めていきたいと考えています。

ご説明しましたように、岐阜大学教育学部は、いろいろな困難な課題を抱えています。一方、大学院全専修の設置や今後の生涯教育講座の設置計画をはじめ新しい展開がなされています。社会を支える基礎は教育だと思っています。その教育を担う教員を養成する本学部に、各地域の教育を担う教員志望の高校生を本学部へ進学するようご支援下さい。

教育学部の現状は、このように困難なことを解決しつつ、大学院の設置をはじめ新しい発展へと進めています。今後とも本学部へのご支援をよろしく願いいたします。

(平成7年5月27日の本会評議会での学部長あいさつより)

各科同窓会トピックス

満洲からの留学生は健在だった

昭和22年岐阜師範学校同窓会 会長 大屋 貞雄

昭和22年卒の者は、学徒動員として学窓中途にして召集された者が多くいた。その中で残念なことに、影山君一人が戦病死し帰らぬ人となった。

その他の者は、また学窓に戻ったり他の学窓より編入した者、学窓に残っていた者等様々のメンバーで一組から四組の本科二年が再編成され、一年後卒業した。

各方面から集まった者達でありながら非常にまとまりがよく、22年卒の同窓会全体の会が規定により、隔年の4月29日(原則として)に、5ブロックの地域を持ち回りで開催することになっている。再来年の4月までが飛騨地区が当番でお世話をすることになっている。

全体の会の間に、組毎・地域毎等のクラス会も開かれているようである。

昭和15年に岐阜師範1部に入学した中に元満洲国よりトクス・バイアルという留学生がいた。その消息が判明し、その組が同級会を開いた時のことを紹介する。なお、トクス君の消息が判明するについては、宮崎悖君の骨折りが大きかった。以下、宮崎悖君からの報告である。

満洲からの留学生は健在だった

岐師を昭和22年に卒業したわれわれが予科に入学したとき、“大人”の風格を備えた留学生、特古期巴雅爾君と机をならべた。

二年前、当時の恩師長野先生ご夫妻をお招きする会を催すに当たって、何とかトクス君の消息を得て、恩師にご報告したいと思った。

中日新聞の“平成たずね人”に取材をお願いし、思いつく限りの方々にご尽力をお願いした。

われらの願いが天に通じたのか、何と、長良川ホテルで恩師を囲む会の前日、トクス君から私の許に、健在で畜牧機械研究所長をしているという便りが届いた。

(岐師範二二会 宮崎悖)

各科同窓会の活動から

このコーナーでは毎号、各科同窓会の総会や様々な活動のようす、これからの予定などについて、お知らせしていきます。簡単な紹介文でけっこうですので(写真などもあれば一緒に)事務局までお送りいただければ、次号に掲載していきますので、よろしく願いいたします。

史学科(史明会) (本部 岐阜大学教育学部史学研究室)

- (1)総会開催日:平成7年8月20日 会場:岐山会館
講演:「人権教育と歴史」岐阜大学教授 藤田敬一先生
(3)会員名簿:平成7年8月発行 (4)機関誌:『史明』 (5)会員数:767名

地理学科 (事務局 委員長在勤地)

- (1)総会開催日:平成7年8月6日 会場:岐山会館
講演:「旧東ドイツの都市のゆくえ」岐阜大学教授 小林浩二先生
(2)総会開催周期:毎年8月
(3)会員名簿:平成7年2月発行 (4)研究機関誌:『濃飛』27号 (5)会員数:438名

数学科 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校)

- (1)総会開催日:平成7年6月24日(土) 会場:教育学部本館7階 第一会議室
記念講演:「算数教育の中で育てられて」可児市立南帷子小学校長 只腰篤憲先生
実践研究発表:関市立旭ヶ丘中学校 安藤忠展先生(35期)
可児市立南帷子小学校 伊藤泰介先生(41期)
また毎年各地域をまわり、その地域の先生方との交流を深めながら夏季研究会を開催している。
夏季研究会:平成7年8月26日(土) 会場:恵那郡姪川村 岩寿荘
実践研究発表:土岐市立肥田中学校 中西善裕先生(41期)
名古屋市荒子小学校 大崎匡子先生(41期)
(2)総会開催周期:毎年 (3)会員名簿:平成7年5月発行(毎年)
(4)会員数:1部1115名, 2部78名, 計1193名

化学科 (事務局 岐阜大学教育学部化学教室)

- (1)総会開催日:平成7年1月29日 会場:十八楼
講演:退官記念講演 岐阜大学教授 五島文昭先生
(2)総会開催周期:2年毎 (3)会員名簿:定期総会時発行 (4)機関誌:『かんきせん』第8号

生物学科 (事務局 岐阜大学附属小学校)

- (1)総会開催日:平成7年8月12日 会場:岐阜大学柳戸会館
講演:「アユの生態から見た人間社会」中部女子短大副学長 和田吉弘先生
(2)総会開催周期:2年毎 (3)会員名簿発行:平成7年8月12日 (4)会報:発行している

音楽学科

- (1)総会開催日:平成7年11月12日(日)AM11:00~PM2:30 会場:十八楼
第10回総会及び懇親会 テーマ「新たなる出発、飛翔のハーモニー」
(2)総会開催周期:満3年に1回 (3)会員名簿:平成7年11月12日発行
(4)同窓会報:『間』(年1回発行)第25号(平成7年9月1日発行) (5)会員数:825名

体育学科 (事務局 岐阜大学教育学部体育学科)

- (1)総会開催日:平成7年4月23日 会場:石金
・体験研究発表会:

実践研究発表「つまづいている生徒への指導—中学2年男子とび箱運動の実践から—」

益田郡小坂中 古川慎一氏

卒論推薦発表「からだの形態計測誤差に関する研究」加茂郡黒川中 長芝真次氏

「柔道に関する身体運動学的研究—投げ技に着いて—」

多治見氏根本中 山田 靖彦氏

(2)総会開催周期：毎年 (3)会員名簿：4年毎発行(フロッピーディスク管理名簿は毎年更新)

(5)会員数：1部907名, 2部71名, 計978名

技術・職業学科

(1)総会開催日：平成8年 会場：西濃地区予定 (2)総会開催周期：3年毎

家政学科

(1)総会開催日：平成6年8月7日 会場：岐山会館

(2)総会開催周期：5年毎 (3)会員名簿：毎年発行

英語・英文学科(ランタン会) (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校)

(1)総会開催日：平成7年1月22日 会場：ホテル「せいらん」

講演：“JAPAN as I See” 東海女子短期大学講師 カーク・ウイルトシャー先生

(2)総会開催周期：次回平成9年開催 (3)会員名簿：平成7年1月22日発行

おくやみ

恩師であり、また長く同窓会幹事としてご活躍いただいた、化学科・五島文韶先生が、5月17日に逝去されました。定年退官1ヶ月余りで、これからもご指導いただきたいと思っていた矢先でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

編集後記

・新しい会則のもと、各部会が活動をはじめています。広報部会も5月から第1号・創刊号の編集にとりかかりましたが、なにぶん初めてのことで10月までずれ込んでしまいました。心待ちにされていた会員の皆さん、ご協力いただいた方々にお詫びいたします。

・第一号は、新しい会則や役員名簿など、会員の皆さんにお知らせすべき事柄が多く、読みにくい編集になってしまいました。これもお詫びします。

・後藤忠彦学部長(S33大物)のお話(18頁～21頁)にも紹介されていますが、私たちの教育学部は大きく動きはじめています。同窓会としても積極的に支援していく所存ですが、同窓会員の皆さんのご支援・ご協力をお願いいたします。

・会報に掲載する記事も募集いたします。各科同窓会での小さな集まりのことで結構です。写真などと一緒にお知らせください。よろしく願います。同窓会事務局の所在地は、下の囲みのとおりです。また、会員の動静についてもお知らせいただければと思います。

・まだ会員一人一人の方へ会報をお届けするてだてがありません。今回の会報配付は、各科同窓会にお願いすることにいたしました。ご迷惑をおかけしますが、よろしく願います。

岐阜大学教育学部同窓会報 第1号

平成7年10月 発行

発行者 田中 貞一郎

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-11 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部内

☎058-230-1111内線6748